

月	小単元	主な学習内容	参考図書		
4	<b>4</b> 火事からくらしを守る (10時間) 	火事だ! 火事だ! 消防しょたんけん 火事の現場で働く人 火事がおきたら まちの消防しせつをさがそう 地いきの協力	■A01-1『めざせ! あこがれの仕事 第1期』ポプラ社 ■A02-6『みぢかなくらしと地方行政』(リプリオ出版)		
5		事故や事件からくらしを守る (8時間)		・火事の写真などから、その様子や原因について気付いたことを話し合う。 ・消防署やまちの消防施設を見学して、気付いたことを話し合ったり図にまとめたりする。 ・消防団の組織や活動について調べて、火事をおこさないために自分にできることを考える。	
6		あっ、あぶない 事故がおきたら 自転車のきまり けいさつの仕事 安全なまちづくり まちの安全マップをつくろう ☆学習のまとめ まちのそれぞれの人の立場で、安全カードをつくろう(1時間)		・自分が「ヒヤリ」とした経験について話し合う。 ・事故が起こった時の関係機関の動きを調べる。 ・自転車のきまりやけいさつの仕事について調べて、話し合う。 ・人々の安全のために努力している地域の人々の活動について調べて、自分にできることを考える。	
7	<b>5</b> 水はどこから (13時間) 	身のまわりの水 わたしたちが使う水の量 じゃ口の水が通る道 安全でおいしい水をつくるために 地図帳でさがそう きれいな川につなげるために 大切な水のために	■A02-10『まちの施設たんけん』小峰書店		
9		ごみのしよりと利用 (14時間)		・生活のどんな場所で水をどのくらい使っているかを調べて、気付いたことを話し合う。 ・浄水場を見学したり、地図帳や資料をもとにして、水がどこからやってくるのかを調べたりする。 ・川の環境を保全している人の働きについて調べて、自分にできることを考える。 ・世界の水事情に目を向け、考えを深める。	
10		ごみを分ける ごみ置き場の様子 ごみのゆくえ もやすごみのゆくえ もやした後のくふう ごみが生まれ変わる ごみしよりのうつり変わり ごみをへらす取り組み まちづくりについて考える ☆学習のまとめ ポスターをつくろう(1時間) ■ごみと自然とわたしたち ■くらしをささえる電気		・家庭のごみについて調べる。(量・種類・場所) ・ごみ置き場や収集車の人の動きを観察して、ごみを出すときのルールやきまり、ごみを集める人の工夫などについて調べる。 ・清掃工場から埋め立て処分場までの流れや今後の課題について調べて、気付いたことを話し合う。 ・リサイクル施設やごみをへらすための人々の工夫について調べて、まとめて発表しあう。 ・資源や自然の大切さに目を向け、自分にできることを考える。	
11	<b>6</b> きょう土をひらく (14時間)	山ろくに 広がる用水 滝を使った用水 村人たちの願い 博物館で調べる 大河原用水を伝える 大河原用水をさぐる くりこしせぎをつくる 用水を開発して 先人の足あと	・先人たちが、地域の人々の生活を向上させるさせるために、強い願いを持って地域の開発や発展の努力を現在まで積み上げてきたことを見学や資料などで調べて、気付いたことを話し合う。 ・地域に残る先人の足跡を調べて、その願いや努力について考える。		
12		☆学習のまとめ 場面づくりを考えて、紙しばいをしよう。(1時間) ■さまざまな用水のくふう ■地いきで学校をつくる ■地いきの文化を受けつぐ ■地いきの産業をおこす			
1	<b>7</b> わたしたちの県 (30時間)	県の広がり (7時間)	日本の中の県 県の地形 土地利用の様子 県内の市や都市 交通の広がり 県の主な産業	■A02-1『マーク・記号の大百科』学研 ■A02-3『やさしい地図入門』ポプラ社 ■A02-5『ぼくらの地図旅行』福音館書店 ■A02-8『地図情報ものしり百科』学習研究社 ■A01-7『日本の職人さん』ポプラ社	
2		特色ある地 いきと人々のくらし (14時間)	1 コウノトリを育てるまち・豊岡市 2 城を守るまち・姫路市 ※1と2は選択 3 焼き物をつくるまち・篠山市		・47都道府県の位置や名称を知る。 ・自分たちの市や県の地理的位置、全体的な地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置などを調べて理解する。 ・県内の特色ある地域の人々の生活の様子について調べて理解する。
3		世界とつながるわたしたちの県 (6時間)	県と世界のつながり わたしたちの県		・県内の産業と他地域や外国とのかかわりについて理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもつ。
	☆学習のまとめ 県じまんのパンフレットをつくろう(1時間) ■都道府県カルタで遊ぼう(2時間)				

3, 4年生の社会科学習は、地域に関する内容が多い。そのため、副読本など、地域に関する資料集がある場合は、それを用いて授業を行うことが多い。